

日本産業衛生学会

第73号 2021年8月20日

産業医部会会報

公益社団法人 日本産業衛生学会 産業医部会事務局
〒160-0022
東京都新宿区新宿1-29-8 公衛ビル内
TEL 03-3356-1536
FAX 03-5362-3746
e-mail:sanei.4bukai@nifty.com



巻頭言



『Withコロナの時代と産業保健』

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科公衆衛生学 神田 秀幸

この度の改選により、日本産業衛生学会中国地方会会長を拝命致しました、神田秀幸と申します。本会報により皆様方にご挨拶の機会を頂戴致しましたことを大変光栄に存じます。これまで大学研究者としてだけでなく、約20年間、様々な業種・業態の産業医として選任頂き、産業保健の現場を経験させて頂きました。この経験を活かして、学会地方会運営に貢献していきたいと決意を胸にしております。

さて、産業保健を取り巻く環境は、混沌とした状況となりました。産業医部会の皆様におかれましては、2020年当初からCOVID-19感染防止対策に尽力されている日々が続いていることと思います。たった一つの感染症が、働く人の行動、人々の往来により蔓延し、命を奪う恐れがあることを、人類は身をもって経験しています。また、人々の保健行動と生産活動・経済活動が密接につながっていることを経験された方も多いことでしょう。確立された治療法がない中では、外出自粛、手指消毒、マスク着用のように予防行動の徹底で、新規感染者数を抑え込むことができれば、人々の消費や行動を広げることはご承知の通りです。こうした動きに伴い、働き方も大きく変わりました。感染症流行前から取組まれてきた働き方改革に相まって、テレワークやオンライン会議などの非接触型の“新しい働き方”が浸透することとなりました。

この感染症蔓延によって、予防医学の重要性、健康教育・衛生活動の基本に立ち返るといった認識が市民に広がりました。これを支える産業保健の存在感が増しており、産業医の役割が社会から期待されています。今後、デジタル化、センサー技術、人工知能の導入などが広がり、人々をより良く支える環境が整う未来が遠くない現実となりました。来たるべきWithコロナ時代の働き方は大きく変革していく流れに突入しています。人が関わる労働の部分は、人にしかできないことに徐々にシフトしていくこととなるとみられます。その中で、働く人たちの根幹である“生きる”を支える存在として、産業医の活躍が求められている時代となりました。

産業医部会の皆様におかれましては、ご尽力を頂き、感謝申し上げます。とりわけ、中国地方会の皆様方には、これからお世話になります。行き届かないところもあろうかと思いますが、皆様方に温かく見守って頂くとともに、ご指導ご鞭撻のほどをどうぞ宜しくお願い申し上げます。

2021年度産業医部会総会（誌上開催）



『部会長ご挨拶』

日本産業衛生学会産業医部会長
日本製鉄(株)東日本製鉄所 統括産業医 宮本 俊 明

このたび、前部会長の斉藤政彦先生の後任として、2021年度より産業医部会会長を務めることになりました宮本俊明です。斉藤先生ほどのインパクトはありませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

私は、産業医部会幹事は広瀬部会長時代の2008年に拝命しています。以来幹事を続け、斉藤前部会長の元で2013年から副部会長を務めて参りましたが、2015年からは学会本部の経理担当理事としての業務が多忙となり、特に2020年からは新型コロナ担当理事としての業務が多忙を極めてしまい、なかなか産業医部会の仕事に腰を据えて対応することができない状況が続きました。これについては部会員の皆様に大変申し訳なかったとお詫びする次第です。一方で学会の財政状態の立て直しや、当学会による「職域における新型コロナウイルス感染症対策ガイド」やCOVID-19への「業種・業態別対策マニュアル」などは、産業医部会の皆様にとっても少しはお役に立てたのではないかと考えています。そんなこともあって2020年度からは森口次郎先生と副会長2人体制となっております。

斉藤部会長の時代には、会員数が着任時の倍になるなど産業医部会の勢いが増してきた時期であり、ニーズに応じて正確な知識と産業医活動に役立つスキルの提供に心を砕いてきた期間だったと思います。この活動の方向性は今後も部会員満足度を高める工夫をしながら継続して参りたいと思います。また、行政が学会に意見を求めることも増え、産業医部会が本部から指名されることも多く、急ぐ案件は幹事会で意見集約して回答することもあります。それだけ貴重かつ妥当な意見を返しているものと考えられ、我が国の課題に対して真摯に向き合う産業医部会の真骨頂が垣間見える活動と誇らしく思っています。また、部会報発行、Pコース開催、学会時の産業医フォーラム、全国協議会の共同開催、部会表彰活動、学会各委員会への協力、四部会連携、各地方産業医部会の活動活性化が大きな活動の柱ですので、この基幹活動の充実も続けていきたいと思っております。

これからも皆様から産業医部会へのご要望・ご意見をいただき、産業医部会が産業医の皆様と日本産業衛生学会および我が国の産業医の世界にどのような貢献ができるかを考え、産業医部会活動の発展に活かしていきたいと考えております。皆様のご協力とご支援を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。



宮本俊明登場

部会体制 ◎：部会長、○：副部会長

【幹事】(北海道) 西條泰明、原 俊之(東北) 各務竹康、菅原 保(関東) 大橋 力、加藤憲忠、谷山佳津子、福本正勝、◎宮本俊明(北陸甲信越) 塚原照臣、西澤依小(東海) 石川浩二、遠田和彦、西賢一郎(近畿) 伊藤正人、岩根幹能、○森口次郎(中国) 奥田昌之、真鍋憲幸(四国) 斎藤 恵、杉原由紀(九州) 池上和範、○小田原努、黒崎靖嘉

【監事】深澤健二

2020年度事業報告

1) 産業医部会

(部会長：宮本 俊明)

1. 研修事業の充実

- 1) 第25回産業医プロフェッショナルコース
テーマ：パワハラ予防に助言を求められたときにどうしますか？
～個人や組織にささる3つの手法～

開催日：2021年1月30日～1月31日 (Web開催)

2) 第19回産業医フォーラム

2020年6月12日～28日 第93回日本産業衛生学会総会 (Webオンデマンド) にて開催
「社会医学系専門医のサブスペシャリティとなった産業医専門医制度の今後」

3) 各地方会活動

(北海道地方会)

- 1) 産業医部会研修会 (第23回産業保健合同研修会開催に併せて)
日 時：2021年3月13日 (札幌市)

(東北地方会)

- 1) 第24回東北地方会産業医協議会
日 時：2020年7月18日 (青森市)
(新型コロナウイルス感染症流行により中止)

(関東地方会)

- 1) 日本産業衛生学会関東産業医部会研修会
日 時：2021年9月5日 (東京都、web開催)
「産業医を取り巻く新型コロナウイルス対応の課題」

- 2) 「産業医ガイド」(第3版) 編集
日本医事新報社 2020年12月発刊

(北陸甲信越地方会)

- 1) 北陸甲信越地方会産業医部会運営委員会
日 時：2020年10月25日 (日) (富山市)

(東海地方会)

- 1) 2020年度 東海地方会産業医部会懇話会
日 時：2021年4月24日 (名古屋市)

(近畿地方会)

- 1) 第25回 近畿産業医部会研修会
テーマ：新型コロナウイルス感染症禍の産業保健
日 時：2020年9月1日～30日
(WEB開催「PDF閲覧」)

(中国地方会)

- 1) 中国地方会産業医部会役員会・総会
日 時：2020年11月23日 (Web開催)

(四国地方会)

- 1) 第7回四国地方会産業医部会オースタムセミナーの開催
日 時：2020年11月1日 (徳島市)

(九州地方会)

- 1) 2020年度九州地方会産業医部会研修会 (第30回日本産業衛生学会全国協議会プレ企画共催)
日 時：2020年11月3日 (鹿児島市)

2. 広報活動の推進 (部会員数増加に向けて)

部会員数増加に向けて産業医部会入会案内の配付やHPの改訂・充実など

3. 研究支援の強化

第30回全国協議会 (Web開催) における、ポスター発表優秀賞授与

受賞者：世古口真吾 (産業医科大学 産業生態科学研究所 作業関連疾患予防学)

「ウェアラブルパーティクルモニターの粉じん発生職場環境での活用」

4. 第30回産業医・産業看護全国協議会の開催

2020年11月20日～30日 (Web開催)

5. 他部会、医師会並びに諸団体との連携強化

- i) 四部会長会議の定期開催
ii) 日本医師会との連携強化推進 (研修会共同開催等)

6. 部会報の発刊

4月、8月、12月

7. 幹事会の開催

第1回 2020年5月14日～23日:メール会議にて

第2回 2020年10月24日:Web会議にて

第3回 2021年2月27日:Web会議にて

2021年度 事業計画

1) 産業医部会

(部会長：宮本 俊明)

1. 研修事業の充実

- (1) 産業医プロフェッショナルコース
第26回 2022年1月22、23日 Web開催

- (2) 産業医フォーラム
第20回 テーマ：「テレワークと産業保健」
2021年5月21日 (金) 13:50～15:30
第94回日本産業衛生学会 (松本市) にて開催予定

- (3) 部会主催研修会開催
(4) 各地方会にて研修会開催

2. 部会報の発刊

年3回 (4月、8月、12月)

3. 広報活動の推進

部会員数増加に向けて産業医部会入会案内の配付やHPの改訂・充実など

4. 研究支援活動

第31回日本産業衛生学会全国協議会での産業医部会ポスター発表優秀賞授与

5. 第31回日本産業衛生学会全国協議会の開催

2021年12月3日～5日 開催予定

6. 他部会・医師会との連携強化

- (1) 四部会長会議の定期開催
(2) 日本医師会との連携強化推進 (研修会共同開催等)
(3) 関係諸団体との連携強化模索

7. 幹事会の開催

年3回 第1回：2021年5月9日：Web会議

第2回：全国協議会開催時 (2021年12月3日：津市)

第3回 (東京都にて、2022年1月又は2月)

8. その他

収支計算書

2020年 3月 1日から2021年 2月28日まで

産業医部会					部会内明細	
科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要	事務局単体	Pコース
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
事業収益	1,600,000	675,000	925,000		0	675,000
協賛金等収益	200,000	200,000	0			200,000
参加登録料収益	1,400,000	475,000	925,000			475,000
その他事業収益	0	0	0			0
受取補助金等	930,000	909,103	20,897		779,103	130,000
受取本部助成金	930,000	909,103	20,897	3,126,000:2020年度中の全入金額 + 48,000:2019以前に納入された2020分 - 36,000:先払いされた2021以降分 =3,138,000円	779,103	130,000
受取国庫助成金	0	0	0			
受取地方公共団体助成金	0	0	0			
受取民間助成金	0	0	0			
受取民営負担金	2,950,000	3,138,000	-188,000		3,138,000	0
受取活動費	2,950,000	3,138,000	-188,000	計上金額(2020年度分のみを計算) 過去の2020先払い分を含み、 2021以降の先払い分を含まない	3,138,000	0
受取寄付金	0	0	0		0	0
受取寄附金	0	0	0		0	0
雑収益	1,257,645	1,257,657	-12		1,257,640	17
受取利息	30	42	-12		25	17
雑収益	1,257,615	1,257,615	0	Pコース立替・引取運搬料返却	1,257,615	0
経常収益計	6,737,645	5,979,760	757,885		5,174,743	805,017
(2) 経常費用						
事業費	5,059,000	7,493,599	-2,434,599		5,456,064	2,037,535
臨時雇賃金	0	0	0			
臨時雇賃金	700,000	0	700,000	2019年度立替分は2019年度計上		
旅費交通費	200,000	87,800	112,200			87,800
通信運搬費	4,000	36,215	-32,215		31,606	4,609
印刷製本費	20,000	14,132	5,868		14,132	
印刷製本費	350,000	0	350,000	2020年度は0円		
消耗品費	85,000	108,123	-23,123		105,400	2,723
機関誌発行費	2,420,000	4,543,409	-2,123,409	2019・2020年分	4,543,409	
広報渉外費	0	0	0			
研究費	100,000	220,000	-120,000	2019・2020年分		220,000
諸謝金	0	0	0			
学食助成金	0	0	0			
協議会助成金	130,000	130,000	0		130,000	
大会研修会助成金	0	0	0			
部会助成金	450,000	450,000	0		450,000	
地方会助成金	0	0	0			
委員会費	400,000	296,613	103,387			296,613
研究費	0	0	0			
委託費	120,000	119,967	33		119,967	
国際交流費	80,000	1,487,340	-1,407,340		61,550	1,425,790
開発保守費	0	0	0			
雑費	413,500	22,650	390,850		19,470	3,180
管理費						
給料手当	400,000	0	400,000		0	
理事幹事会費	0	0	0			
旅費交通費	1,000	2,080	-1,080			2,080
通信運搬費	0	0	0			
役員改選費	0	0	0			
印刷製本費	0	0	0			
消耗什器備品費	2,500	0	2,500			
消耗品費	0	0	0			
会員報奨費	0	0	0			
広報渉外費	0	0	0			
委託費	10,000	20,570	-10,570		19,470	1,100
雑費	5,472,500	7,516,249	-2,043,749		5,475,534	2,040,715
経常費用計	1,265,145	-1,536,489	2,801,634		-300,791	-1,235,698
評価損益調整前当期増減額						
評価損益等計						
当期経常増減額	1,265,145	-1,536,489	2,801,634		-300,791	-1,235,698
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計					0	0
(2) 経常外費用						
経常外費用計					0	0
当期経常外増減額					0	0
当期一般正味財産増減額	1,265,145	-1,536,489	2,801,634		-300,791	-1,235,698
一般正味財産期首残高	4,500,000	6,645,605	-2,145,605		3,991,604	2,654,001
一般正味財産期末残高	5,765,145	5,109,116	656,029		3,690,813	1,418,303
II 指定正味財産増減の部						
当期指定正味財産増減額					0	0
指定正味財産期首残高					0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0		0	0
III 正味財産期末残高	5,765,145	5,109,116	656,029		3,690,813	1,418,303
		36,000		(前受金:先払いされた2021年度以降分の活動費)	36,000	
		¥5,145,116			¥3,726,813	
		(財産目録の合計と一致)			(財産合計)	

2020年度決算書報告

- 産業医部会全体では、単年度で123万6,489円の赤字(経常収益計:597万9,760円、経常費用計:751万6,249円)。
- 大幅な赤字の主な要因としては、産業医部会報の委託費用(機関紙発行費202万6,200円)の請求書発行遅れにより、支払いが3月にずれ込んだため。202万6,200円を差し引くと、実質は48万9,711円の黒字。
- Pコースは、単年度で123万5,698円の赤字(経常収益計:80万5,017円、経常費用計:204万715円)。
- 大幅な赤字の主な要因としては、Pコースの銀行口座のキャッシュカードが磁気不良で使用できなかったため、事務局単体の口座のキャッシュカードで立て替え清算した分125万7,615円を返却したため。125万7,615円を差し引くと、実質は21,917円の黒字。

※立替清算分は、事務局単体の収入((1)経常収益 雑収益 雑収益)およびPコースの支出((2)経常費用 事業費 雑費)として計上

監査報告

私は、日本産業衛生学会産業医部会の令和2年度（令和2年3月1日から令和3年2月28日まで）における業務の執行および経理につきまして、幹事会へ出席し、担当者より業務執行状況につき報告を受け、また必要に応じて説明を求め、さらに収支計画書等関係する帳簿等を検討することにより、監査いたしました。

その結果、業務は適切に執行され、また経理は適正に処理されていることを確認いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

以上

令和3年4月6日

(公益社団法人) 日本産業衛生学会 産業医部会

監事

深澤 健二

深澤 健二



収支予算書

2021年3月1日から2022年2月28日まで

産業医部会

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
事業収益	1,500,000	1,600,000	-100,000	
協賛金等収益	200,000	200,000	0	
参加登録料収益	1,300,000	1,400,000	-100,000	
その他の事業収益			0	
受取補助金等	930,000	930,000	0	
受取本部助成金	930,000	930,000	0	
受取国庫助成金			0	
受取地方公共団体助成金			0	
受取民間助成金			0	
受取負担金	3,050,000	2,950,000	100,000	
受取活動費	3,050,000	2,950,000	100,000	
受取寄付金	0	0	0	
受取寄付金			0	
雑収益	30	30	0	
受取利息	30	30	0	
雑収益			0	
経常収益計	5,480,030	5,480,030	0	
(2) 経常費用				
事業費	5,020,000	5,059,000	-39,000	
臨時雇賃金			0	
会場賃金	650,000	700,000	-50,000	
旅費	160,000	200,000	-40,000	
通信搬送費	0	4,000	-4,000	
印刷製本費	0	20,000	-20,000	
親会費	350,000	350,000	0	
消耗品費	50,000	85,000	-35,000	
機関誌発行費	2,500,000	2,420,000	80,000	
広報渉外費			0	
研究費			0	
諸謝金	100,000	100,000	0	
学会助成金			0	
協議会助成金			0	
大会研修助成金	130,000	130,000	0	
地方会助成金	450,000	450,000	0	
委員会費			0	
研究会費			0	
委国託交流費	410,000	400,000	10,000	
国際交保費	120,000	120,000	0	
雑費	100,000	80,000	20,000	
管理費	461,000	413,500	47,500	
給料手当			0	
理事幹事会費	450,000	400,000	50,000	
旅費			0	
通信搬送費	0	1,000	-1,000	
役員改選費			0	
印刷製本費			0	
消耗什器備品費	1,000	2,500	-1,500	
消耗品費			0	
会員報奨費			0	
広報渉外費			0	
委託費			0	
雑費	10,000	10,000	0	
経常費用計	5,481,000	5,472,500	8,500	
評価損益調整前当期増減額	-970	7,530	-8,500	
評価損益等計			0	
当期経常増減額	-970	7,530	-8,500	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計			0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計			0	
当期経常外増減額			0	
当期一般正味財産増減額	-970	7,530	-8,500	
一般正味財産期首残高	4,420,000	4,500,000	-80,000	
一般正味財産期末残高	4,419,030	4,507,530	-88,500	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額			0	
指定正味財産期首残高			0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	4,419,030	4,507,530	-88,500	

2021年度の予算書報告

- 2019年度の決算、2020年度上期までの実績と下期の見込み、2021年度の会員数増加の見込みなどを下に作成。
- 特記すべき新しい科目や前年度と大きな金額の増減なし。



『産業医プロフェッショナルコース、 浜口伝博先生の貢献に深く感謝いたします』

(前産業医部会長)

大同特殊鋼(株)統括産業医 齊藤政彦

産業医プロフェッショナルコースは、今でこそ産業医部会の看板事業となっていますが、ここまで継続・発展できたのは、ひとえに浜口伝博先生のおかげです。二十年前に浜口先生が独力で立ち上げたセミナーで、理事会や産業医部会幹事会でその目的や必要性を力説していた先生の姿が目に見えます。当時私は懐疑的で、大変失礼なことですが、これほど長く続くとは思いませんでした。魅力的なテーマがそれほど多く見つかるとは思いませんでしたし、一泊二日という泊まり込みの研修で、参加費がその分高く、需要は限られる、と考えていました。しかし浜口先生はそんな私の予想を吹き飛ばして、より一層魅力的なものへと発展していただきました。その牽引力は目を見張るものがあり、産業医の指導・教育にける情熱にはオーラすら感じます。

学会には専門医制度がありますが、専門医は資格であって、取得して維持するものです。一方、浜口先生は、本セミナーを、既存の産業医の枠に留まらないでより上を目指して飛躍しようとする産業医の要望に応えるもの、と位置付けておられました。医療機関でマニュアルやガイドラインに沿って診療をしている臨床医と異なり、産業医は、前向きに取り組むか、後ろ向きに最低減のことしかしないかで大きな差が出ます。前向きに頑張れば、労務管理や人材育成、リスク管理など、会社経営の根幹に関わる分野で貢献でき、それが認められれば、社内の地位が向上し、産業医として能力を発揮できる環境が整います。

実際のセミナーは浜口先生の指揮の下、実行委員が毎回魅力的なテーマを選び、その分野の第一人者を講師に招いて実践力の高まるプログラムが組まれました。そして当日は運営委員が卒なく運営する。実に見事なチームワークで、毎回成功裏に終わるその様子に感服しながら見ておりました。参加者からは毎回好評を得て、その魅力にリピーターの多いのもこのセミナーの特徴です。

昨今の社会的ニーズの高まりもあって、産業医を目指す医師が増えてきています。リーダーシップを発揮する存在が求められます。プロフェッショナルコースで学んだ多くの産業医が各地で活躍し、浜口先生の志のすそ野がさらに広がることを祈念します。本当にありがとうございました。また、これからも産業医部会の発展のためにご指導ご鞭撻、よろしく申し上げます。



浜口伝博先生
感謝状と感謝楯とともに

第94回日本産業衛生学会 学会賞受賞によせて



『プロフェッショナル産業医の確立を目指して』

(九州地方会)

産業医科大学産業生態科学研究所
産業保健経営学研究室

森 晃 爾

この度は、第94回日本産業衛生学会において、学会賞を受賞できたこと、大変光栄に思いますとともに、これまで多くの皆様のいただいたご支援に感謝申し上げます。

せっかくの機会をいただきましたので、私の産業保健専門家としてのこれまでのキャリアを振り返りながら、受賞に当たり思うことを述べたいと思います。私は、1986年に産業医科大学を卒業後、産業医学研究を志し、設置されたばかりの産業生態科学研究所の大学院生として進学し、主に雄性生殖毒性の検討を行いました。研究を続ける中で生じた現場ニーズや実感と研究との乖離に対する疑問を埋めるために、大学院修了後に労働衛生機関医として勤務しました。そこで、多くの事業場に健診や産業医活動で訪問し、様々な労働現場を間近でみることによって、実務家としての自分のアイデンティティーが芽生え、同時に社会に対する無知を痛感するようになりました。約1年半の経験ののち、外資系石油会社で専属産業医を務め、自律管理型産業保健を学び、11年間の専属産業経験を経て2003年に産業医実務研修センター所長に就任しました。この過程で、産業医という職種が真のプロフェッショナルとなるためには、①伝達可能な体系的知識・技術の存在、②特定の教育・指導方法で育成可能、という二つの要素を満たすことが必要であることを強く意識するようになりました。特に実践学問の体系的知識・技術では、エビデンス創出とともに、技術の形式知化が不可欠です。その技術には、プロセスレベル、複数のプロセスで構成される活動レベルやシステムレベルのものがあります。そこで、様々なレベルの技術について、十分に形式知化されていない領域を見出し、質的研究、量的研究、モデル事業を組み合わせる取り組み、その成果をツール化したり、教育・育成プログラムに実装したりすることに価値を置き、教員生活を続けてきました。

私たちが産業医を始めた当時、日本には体系的な研修プログラムはなく、実践経験を持ち寄って議論して、また実践するといった試行錯誤の連続でした。今でもその繰り返しは、産業医の成長には極めて重要ですが、その基盤となる知識・技術体系と提供システムの構築への貢献が評価され、今回の受賞に結びついたと考えております。社会が変革する中でプロフェッショナル産業医に対するニーズが拡大しています。今しばらくは、研究と実践の両面での取り組みを進めていきたいと思



産業保健経営学研究室のスタッフとともに

第94回日本産業衛生学会 奨励賞受賞によせて



『産業保健活動の暗黙知を形式知に』

(九州地方会)

産業医科大学 両立支援科学 立石 清一郎

この度は日本産業衛生学会奨励賞をいただくこととなり、これまでお世話になった皆様方に厚く御礼申し上げます。

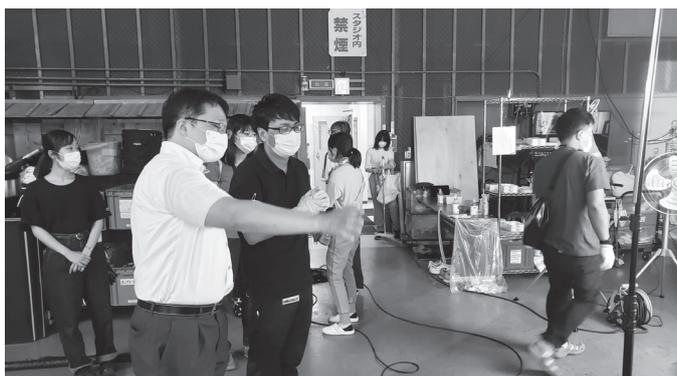
臨床研修後、労働衛生機関に6年在籍し、産業保健の習熟というものが非常に難しいものであると感じました。「産業保健実務をだれでも理解しやすく実務に役立つ研究を行いたい」と思い、帰学しました。

健康診断の事後措置の研究では、医師の就業判定は法的義務になっているにもかかわらず、多くの産業医が悩みながら判定していることが判明しました。そこで、医師が就業制限等を検討する目安の基準を作成することになりました。Delphi法を用いて、産業医によるコンセンサスを形成し公表しました。

災害対応については、東京電力福島第一原子力発電所の支援を通じて災害時の産業保健活動の重要性を実感として感じたため調査を開始しました。爆発事故対応をしているベテランの産業医等へのインタビューを行い、質的研究の手法を用いて「危機事象発生時の産業保健スタッフ向け危機対応マニュアル」を開発し公表しました。現在はこの活動を拡充し、外部支援チームD-OHAT (Disaster Occupational Health Assistant Team) を結成し、次の災害に備えています。

両立支援については、当初は当事者などを中心に、「産業保健スタッフが当事者の就労リスクを高く見積もり就業制限を濫用することにより就業機会が損なわれている」、といった誤解を受けることも少なくありませんでした。事例調査などを通じて、事業者の行う安全配慮と就業機会を拡大するための配慮、という文脈の違う2種類の配慮のパターンを示すことができました。多くの一般の方に産業保健スタッフの就業配慮の意図が理解され、産業保健スタッフは両立支援の非常に重要な一員として広く知られるようになりました。また、大学病院の両立支援外来を主宰する機会をいただきました。医療機関において主治医の意見書を作成する際にも活用できることが確認できたので、医療機関向けの研修会などの展開もはじめています。

今まで手掛けてきた研究は、すでに実務家に対応している暗黙知を形式知に変換するというものです。当初帰学した時の目的である誰でも理解しやすい形での教育・研修に役立っていると思っています。多くの産業医、産業看護職・保健職、医療機関スタッフなどにハイレベルの教育を行い人材育成に貢献していこうと思います。



初回緊急事態宣言後のドラマ撮影再開支援を実施して



『奨励賞を受賞して』

(関東地方会)

順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 遠藤源樹

このたび、日本産業衛生学会奨励賞を受賞させて頂きまして、誠に有難うございます。日本産業衛生学会の先生方、遠藤源樹を御指導してくださいました恩師の先生方に、この場を借りまして、感謝申し上げます。

私は、医師になったものの、学生時代に夢に描いていた順風満帆なエリート街道から外れた20代を過ごしました。そうした中で、土日と夜間に働くことで得られた「産婦人科医としての臨床経験」と、がんなどの病気で療養した方々を「産業医として就労支援してきた経験」から、2008年に「治療と就労の両立支援」の研究をしたいと思い立ち、「がんと就労」のコホート研究のためのデータ収集を開始しました。その当時は、誰も「治療と就労の両立支援」に関心を持っておらず、いつも、一人寂しく「治療と就労の両立支援」に関する学会発表をしていた時のことを今でもよく覚えています。そのもがきの中で、流石に我流の疫学研究ではいけないと思い、2010年に、獨協医科大学公衆衛生学講座教授の武藤孝司先生の大学院生になり、武藤先生から公衆衛生学・疫学の基礎と意義など、多くのことを御指導頂きました。

転機となったのは2015年に大阪で行われた日本産業衛生学会です。この学会発表後、メディアなどからの取材依頼が舞い込むようになり、2017年には、厚労科研がん対策総合研究事業「がん患者の就労継続及び職場復帰に資する研究」の研究代表者として採択されることになりました。「就労意見書作成支援ソフト（既に、順天堂醫院、がん研有明病院、福井県済生会病院など、全国17のがん診療連携拠点病院で活用）」を特許申請するとともに、「選択制がん等罹患社員用就業規則標準フォーマット」「がん腫別治療モデルカレンダー」などのオリジナルの就労支援ツールを開発しました。また、米国のMichael Feuerstein教授、オランダ・Ute Bultmann教授、中国対がん協会の先生方と、就労支援に関する国際共同研究を行っています。

現在では、「がんと就労」の研究と就労支援ツールの開発で得られた経験をもとに、「不妊治療と就労」「妊娠と就労」「循環器疾患と就労」「統合失調症と就労」に関する英文原著論文を書いています。英文原著論文の筆頭著者はまだ10編にすぎません。1編でも多くの英文原著論文が学術誌にアクセプトされ、遠藤チームで開発した様々な就労支援ツールが社会で活用促進されるよう、日々匍匐前進して参ります。

「誰でも、その人なりに働き続けられる社会のために」

これからも、御指導御鞭撻の程、何卒宜しくお願い致します。



両立支援の研究に励む、海外の友人達とのひととき

社会医学系専門医制度

『社会医学系専門医・指導医に関わる情報提供(第10回)』



今年度の社会医学系専門医試験と専門医・指導医更新について

産業医科大学 産業生態科学研究所 作業関連疾患予防学
(社会医学系専門医協会 理事・専門医試験分科会長)

大神 明

□今年度の社会医学系専門医試験について

9月12日(日)に完全ウェブ方式にて実施予定です。

今年の受験申込みは5月31日で締め切っており、46名が受験予定です。試験は昨年同様、筆記試験、面接試験、グループ討論の3種類を一日で行います。

□社会医学系専門医・指導医更新について(協会事務局に届いたQ&Aより抜粋)

問: 必修受講項目である「医療倫理」「感染対策」「医療安全」はどのように受講すればよいか?

答: 社会医学系専門医協会のHP上でのeラーニングによる受講をお勧めします。

リンク先 <https://elr.jp/e-phgakkai/>

あるいは、社会医学系専門医協会のHPの説明会・講習会のページをご参照ください。

リンク先 <http://shakai-senmon-i.umin.jp/seminar/>

問: 必修受講項目である「医療倫理」「感染対策」「医療安全」の3単位と指導医講習会7単位で、計10単位取得したと認められるか?

答: 認められます。

※単位認定については、最終的には専門医・指導医認定委員会の判断になります。

問: 社会医学系専門医協会HPのQ&Aに「日本医師会認定産業医の生涯研修の認定単位については、有効期間内の取得単位を上限3単位までK単位として認めます。ただし、K単位との同時申請は認められません」とあるが、同時申請とはどういう意味か?

答: K単位として取得するためには、産業医の認定更新に必要な20単位とは別に、単位を取得する必要があります。(21単位を取得して初めて、20単位を産業医の認定更新に、1単位をK単位として活用できます)。

問: G単位に関する「社会医学系の論文筆頭著者」、について、掲載雑誌等の指定はあるか。その申告はどのようにするか。

答: 社会医学系の論文であれば、掲載雑誌の指定はないです。

なお、社会医学系専門医協会の構成8学会の雑誌であれば、1回につき3単位取得でき、その他の雑誌であれば1単位取得となります。抄録や掲載論文のコピーを申請時に添付してください。

問: 5年間毎年日本産業衛生学会の総会に参加すれば、更新に必要なG単位を10単位取得できたと考えてよいか?

答: その通りです。ある年度で産業衛生学会総会と協議会を両方参加できれば、G単位は3単位取得出来ますので、5年間毎年総会と協議会の両方に参加すれば15単位取得することになります。

社会医学系専門医制度プログラムの紹介



『社会医学系専門医研修熊本大学プログラムのご紹介』

(九州地方会)

熊本大学大学院生命科学研究部生体情報解析学 大 森 久 光

熊本大学社会医学系専門医研修プログラムは、熊本大学大学院生命科学研究部、熊本大学医学部附属病院を基幹施設として作成されています。研究連携施設として熊本県総合保健センター、研修協力施設として主として行政・地域担当：熊本市保健所・各区役所、熊本県保健所、熊本県健康福祉部、主として産業・環境担当：熊本産業保健総合支援センター、主として医療担当：熊本大学医学部附属病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の研修体制としております。

社会医学系専門医に求められる8つのコンピテンシー(基礎的な臨床能力、分析評価能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、パートナーシップの構築能力、教育・指導能力、研究推進と成果の還元能力、倫理的行動能力)が確実に身に付けられるものとして構築がなされており、加えて専門医を目指す皆さんが無理なく、確実に履修できる構成になっています。

熊本大学は、県内唯一の医育機関として長年に渡り数多くの医師を輩出してきており、臨床医学の分野は当然として、基礎医学分野、社会医学分野でも傑出した人材を送り出してきております。北里柴三郎博士の破傷風菌培養・血清療法の開発、蟻田功博士の天然痘撲滅、満屋裕明博士の抗HIV剤開発は、熊本大学医学部出身者の素晴らしい業績となっています。近年は、疾病の主体は感染症から、がんをはじめとする生活習慣病、高齢化にともなう認知症となってきましたが、この中でも熊本大学を中心として様々な取り組みがなされ、慢性腎臓病の減少、認知症医療モデルの構築、がん診療地域連携パスの運用、子どもの健康と環境に関する全国調査の拠点としての活動、熊本県下でのICTを活用した医療情報連携事業、などが行われております。このように、熊本大学は社会医学系専門医を取得するために必要な学習、実習環境が整っており、社会医学系専門医を目指す医師が安心してキャリアを積むことができるプログラムを提供できる体制となっています。是非、社会医学系専門医研修熊本大学プログラムで学ぶことを強くお勧めします。

是非とも一度プログラムに目を通し、皆様のキャリアの一つに考えてみていただければ幸いです。

第31回日本産業衛生学会全国協議会の開催案内(第2報)



日本産業衛生学会 第31回全国協議会企画運営委員長
三重大学大学院医学系研究科公衆衛生・産業医学分野

(東海地方会)

筈 島 茂

(1) 開催方法

第31回日本産業衛生学会全国協議会は、現地会場(三重県津市総合文化センター)とオンラインからなるハイブリッド形式で開催します。現地開催の期間は、2021年12月3日(金)から5日(日)迄の3日間です。オンデマンド配信となるプログラムについては、2022年1月10日(月)まで視聴可能です。主要会場のプログラムはライブでもオンライン配信できるよう準備を進めております。一般演題(公募)はオンライン上でのポスターセッションへの出題として募集する予定です。なお、新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、開催方法を大きく変更せざるを得ない可能性がありますので、学会ホームページを、適宜参照して下さい(<https://procomu.jp/sanei-zenkoku2021>)。

(2) 企画プログラムのご紹介

6月末現在までに、講演やシンポジウムを含む50余りの企画が集まりました。産業衛生、産業保健分野に係わる皆様の熱意を強く感じております。この場をお借りして、関係の皆様に深くお礼申し上げます。今回の全国協議会のプログラムを構築させていただいた数多の素晴らしい企画の中でも、ポストコロナの経済社会と産業衛生に係わる論点を含むものとして、次の企画に注目しております(文中敬称略)。ご参加頂ける皆様それぞれにおかれましても興味深い企画を見いだして頂けると確信します。

- 1) 基調講演：尾身茂(地域医療推進機構理事長)「新型コロナウイルス感染症のこれまでとこれから」
- 2) 特別講演：西浦博(京都大学教授)「新型コロナウイルス感染症の疫学、数理モデルと今後」
- 3) 特別講演：荒井秀典(国立長寿医療研究センター理事長)「高齢勤労者における職域でのサルコペニア・フレイル予防の必要性」
- 4) 特別講演：椎葉茂樹(防衛省大臣官房衛生監)「労働衛生と新型コロナウイルス感染症～軍陣医学からのアプローチ～」
- 5) 特別講演：古元重和(厚生労働省がん・疾病対策課長)「経済社会における疾病対策のありかた」
- 6) 特別講演：土肥薫(三重大学教授)「心臓病発症・進展に関連する精神的・社会的要因について考える～循環器内科医の立場から～」
- 7) 講演：北島正章(北海道大学准教授)「新型コロナウイルス感染症下水道疫学調査～事業所内でのウイルス感染モニターの可能性～」
- 8) 特別講演：後藤章暢先生(兵庫医科大学教授)「ポストコロナ時代における産業保健の戦略」
- 9) メインシンポジウムⅠ：ポストコロナの現状と今後の産業衛生の展望
- 10) メインシンポジウムⅡ：ポストコロナの働き方・産業衛生への提言

第31回全国協議会 産業医部会自由集会のご案内



石川浩二



原 俊之

東海地方会 幹事 石 川 浩 二
北海道地方会 幹事 原 俊 之

今回の自由集会の企画を検討するにあたり、全国協議会時に開催する産業医部会の自由集会と、春の学会時の産業医部会フォーラムとの住み分けについて、改めて幹事会にて確認しました。フォーラムは、医部会が中心となり、医部会員以外の会員へも旬なテーマを発信していくことを目的としており、自由集会は医部会員の内輪で知識や経験を共有してレベルアップに役立てることを目的としている、ということでした。

そこで今回、「失敗から学ぶ産業医活動」と「産業医にも活かせる資格の知識」を考え、今回ハイブリッド形式での開催のため前者は発表者の抵抗もありえることから、後者としました。

対象となる資格は、①産業医業務に従事しながら取得可能 ②産業医活動の実践に有用 ③取得のために相応の努力が必要 の3つとし、国家資格や学会資格に限らないものとしました。

一方、以下のような資格は除外しました。①多くの医部会員が取得している資格②検定など容易に取得可能な資格③ほぼ取得が不可能な資格④医学系の学会専門医（日本専門医機構 19領域、そのサブスペシャリティ領域）⑤産業衛生関係の資格（産業衛生学会専門医、社会医学系専門医、労働衛生コンサルタント、日本医師会認定産業医、衛生管理者、T H P 関連資格、産業カウンセラー、作業環境測定士、各種有害業務関連作業主任者他）

以上をもとに、以下の通り、対象資格、演者を選任、依頼して企画しております。演者の先生方には、

- 資格取得を目指した動機、きっかけ
- 資格取得に必要な手続き
- 資格取得を現在（過去）の産業医活動へいかに活かしたか
- 今後の取得のお勧め度、難易度

を軸にご発表をお願いしております。部会員の皆さまにとっても、大変刺激のある、また有意義な自由集会となることを確信しております。ぜひ多くの会員の皆さまに現地でお会いできることを楽しみにしております。

1. 日時：2021年12月4日（土）17時30分～19時30分（予定）
2. 場所：三重県総合文化センター 中ホール（第1会場）
3. テーマ：産業医にも活かせる資格の知識
4. 演者と資格
 - ① 森本英樹先生（森本産業医事務所）：社会保険労務士、公認心理師
 - ② 今井鉄平先生（OHサポート（株））：MBA（経営学修士）、MPH（Master of Public Health）
 - ③ 宋裕姫先生（日産自動車健康保険組合）：MPH（Master of Public Health）、DrPH（Doctor of Public Health）、メンタルヘルス法務主任者
 - ④ 加藤憲忠先生（富士電機（株）大崎地区）：日本睡眠学会専門医、日本東洋医学会漢方専門医

以上

第94回 日本産業衛生学会



『開催報告』

(北陸甲信越地方会)

第94回日本産業衛生学会 事務局長
信州大学医学部産業衛生学講座

塚原 照臣

第94回日本産業衛生学会は、会場およびライブ配信(2021年5月18日～5月21日、まつもと市民芸術館、深志神社梅風閣)、オンデマンド配信(2021年5月24日～2021年6月30日)により開催させていただきました。度重なる企画や発表形式の変更・中止などにも関わらず、皆様にはご理解とご協力を賜りました。お詫びと御礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の流行により、第93回日本産業衛生学会(旭川市)は誌上・Web開催となりました。これを受け、第94回は是非とも会場にて顔を合わせたいとの思いの下、流行状況を見守りながら企画・立案を進めました。国内感染者数は、年末年始にひとつのピークがありました。このまま底をついてくれたら、と考えていた春先に徐々に感染者数が増加に転じました。当初は3会場にて開催を予定していましたが3月になって2会場に絞り、プログラムの再編を行いました。また、感染症対策チームを組織して、参加方法に関するアルゴリズムの作成、会場における感染予防策を講じました。参加登録者は、現地参加1,313名、Web参加2,591名、でした(2021年6月30日時点)。会場開催当日は、緊急事態宣言等により来場できない参加登録者も多く、舞台裏では座長代理の調整などに追われました。プログラムは、基調講演をはじめ、特別講演3つ、学会賞受賞講演、奨励賞受賞講演、シンポジウム21(メインシンポジウム、特別シンポジウム含む)、教育講演11、フォーラム5つ、産業医研修会6つ、部会研修会2つ、地域交流集会、を行いました。演題数は、指定演題161演題、一般演題483演題、また、ご協賛等いただいた企業は78社、と多くの皆様にご参加いただくことができました。

コロナ禍がひとつの転機となりましたが、今後の学会開催は、会場開催のみならず、ライブ配信やオンデマンド配信を有効に活用することにより、ますます充実した場となるものと感じました。コロナや初のライブ・オンデマンド配信を理由にしてはなりません、何かと至らなかった点が多々あり、ご迷惑をおかけしたことと存じます。今は無事に終了することができ、胸をなでおろしています。この場をお借りして皆様に厚く御礼を申し上げます。

全てのの人に
産業保健の光を

第94回
日本産業衛生学会

The 94th Annual Meeting of Japan Society for Occupational Health

会期	会場およびライブ配信 ▶ 2021年5月18日(火)～21日(金) オンデマンド開催 ▶ 2021年6月1日(火)～14日(月)(予定)
会場	まつもと市民芸術館 / ホテルブエナビスタ / 梅風閣
企画運営委員長	野見山 哲生 (信州大学医学部衛生学公衆衛生学教室 教授)

<https://convention.jtbcom.co.jp/sanei94>

【学会事務局】 信州大学医学部 衛生学公衆衛生学教室 〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 TEL: 0263-37-2622
【運営事務局】 株式会社 JTB コミュニケーションデザイン ミーティング&コンベンション事業部
〒541-0056 大阪府中央区久太郎町 2-1-25 JTB ビル7層 TEL: 06-4964-8869 FAX: 06-4964-8804 E-mail: sanei94@jtbcom.co.jp



会場玄関口



芸術館入り口と感染対策



企画運営委員長ご挨拶



距離を取っての受付



まつもと市民芸術館 主ホール



まつもと市民芸術館 小ホール



オンライン配信



オンラインによる総合討論



オンラインによるご講演



運営スタッフ数はいつも以上に



企業展示



単位デスク



深志神社梅風閣会場



感染対策しながらの座長進行



ありがとうございました

撮影：大平滋子



『産業医部会フォーラム「テレワークと産業保健」 開催報告』

(北陸甲信越地方会)

株式会社高山産業医事務所 高山 英之

今回5月20日に松本で開催された産業医部会産業医フォーラムで、高知県の杉原先生と共に座長を務めさせて頂いた、福井県の高山です。今回は新型コロナの影響もあり、どうなることかと心配しておりましたが、現地参加の先生方は椅子が全て埋まる程の活況で安心半分、緊張半分といった状況でした。ウェビナーの参加者も300名以上となり、今回のテーマである「テレワークと産業保健」に対する関心の高さがうかがわれました。

まずは富士通の阿萬野様から人事総務のお立場から、先進事業場でのテレワークの取り組みをご紹介頂きました。テレワークを進めるためには会社側の周到な準備のみならず、労働者の高い意識が必要であり、中小企業で進みにくい現状を理解する一助となりました。

続いて原先生からはVDT症候群についてお話しいただきました。昭和60年にVDT作業のガイドラインが発出されて現在まで産業医学の一つのテーマになっていますが、当時とは端末・労働環境とも大きく様変わりし、それに合わせてVDT症候群も様変わりしている現状をわかりやすくご説明いただきました。

遠隔産業衛生研究会を代表して、石澤先生からは、遠隔産業衛生の現状と課題について解説いただきました。新型コロナの影響で大きな注目を集めている遠隔産業衛生について各事業場での取り組みの現状や、最近の法改正について理解を深めることができました。

最後は大手企業で専属産業医として活躍されている濱田先生から、実際にテレワーク下での産業医の実務の事例について好事例を中心に提供していただきました。

以前からテレワーク・遠隔産業衛生については興味を持っておりましたが、この1年で急速に進めざるを得なくなりました。現場では様々な事例を見聞きするようになり、このタイミングで知見を整理する機会を頂けたこと、企画された先生の先見の明に深く感謝しております。



発表者



会場風景



『メインシンポジウム3 「多様な背景により働きにくさを抱える労働者に」 参加報告』

(九州地方会)

産業医科大学 産業生体科学研究所
産業保健経営学研究室

永田昌子

松本で開催された94回日本産業衛生学会 メインシンポジウム3に参加いたしましたのでご報告いたします。学会のテーマであった”すべての人に産業保健の光を”に基づいたシンポジウムで、多様な背景により働きにくさを抱える労働者が取り上げられ、座長は北里大学 堤 明純先生、産業医科大学江口 尚先生が務められました。取り上げられた多様な背景は5つでした。1) 身体疾患について、産業医科大学 立石清一郎先生が仕事と治療の両立支援について、両立支援は就業制限と同義ではないこと、労働者の働く意欲など個別性を見て、本人目線で治療と仕事の両立に専門家としてかかわることが必要と指摘されました。



2) 精神障害者について、福岡大学 堀 輝先生が、精神症状の改善だけでなく就労の希望が患者にあり、疾患名だけでなく機能のばらつきを加味した個別医療の検討が進んでいることなどをご紹介いただきました。3) 発達障害について永田よりグレーゾーンの存在に着目し個別と組織の視点で対応の注意点について紹介しました。

4) 高齢者について、福岡教育大学 樋口善之先生からは定年制度の変遷、改正高齢者雇用安定法の施行を背景に70歳までの就労を見据え、高齢者が活躍できる職場環境や若年期からの取り組みの必要性について言及され、現状のチェックと開戦すべき優先事項の検討のために、中央労働災害防止協会「エイジアクション100」をご紹介いただきました。5) セクシュアルマイノリティについてパーソルチャレンジ株式会社 並木崇之先生と荻野佳織先生より、会社の中で自主的な活動として始まったセクシュアルマイノリティに対する社内外への啓発活動の紹介、そして、SOGI (Sexual Orientation Gender Identify) の観点を示され、LGBTだから特別な対応をしなければいけないのではなく、からだの性×こころの性×ふるまう性×好きになる性=ひとりひとりの個性としてとらえ対応することをポイントとして示していただきました。

本シンポジウムで取り上げた多様な背景への対応には、疾患や障害は「診断」でひとくくりにししない(ラベリングしない)こと、障害や能力はスペクトラム・グラデーションであること、そのために個別



性に着目する必要があることや能力ベースの評価をすることなど、通底する要素が確認でき、このことは、誰もが働きやすい職場を目指す、日本産業衛生学会の今後の目標の背景につながるのと座長によるまとめで終了しました。



『シンポジウム8「産業化学物質による産業現場の現状と実験研究と疫学研究の寄与」参加報告』

(九州地方会)

産業医科大学 産業生態科学研究所 呼吸病態学 森本 泰夫

本シンポジウムのテーマは、様々な疫学研究や動物実験などの実験研究などの産業現場で問題視された化学物質の研究が科学的な知見の蓄積につながったかを検証することであり、研究の一方向性として、科学的な知見として社会還元になった研究内容を紹介し、研究者に対して化学物質研究のあり方の参考になればというコンセプトがあると思われました。

まず、労働安全衛生総合研究所の甲田茂樹先生は、わが国における最近の労働災害事例を紹介しました。事例の中には、化学物質の有害性情報が全くないため、結果的には法規制管理の対象から外された化学物質もあったことが報告されており、労働現場の視点からすると、化学物質の有害性評価が十分でないことの指摘(研究者への頑張れメッセージ)のように思われました。

慶応義塾大学 中野真規子先生は、薄型ディスプレイの透明導電膜材料であるインジウムスズ酸化合物(ITO)の疫学的研究で、インジウムと間質性肺疾患の量・反応関係が認められたことなど報告しました。この結果から生物学的許容値(血清インジウム濃度)の設定、さらに、当該物質等が特定化学物質障害予防規則における特定化学物質第2類指定、特殊健康診断の義務化につながりました。研究結果が法改正につながったことは、研究者冥利につきると、ただただ感心させられました。

労働安全衛生総合研究所の豊岡達士先生は、3次元ヒト培養皮膚を用いた化学物質の経皮ばく露評価について講演しました。これは、作業現場でおきた手袋から浸透した化学物質が膀胱がんなどを引き起こしたことに端を発し、どのようにすれば、手袋の物質透過性を評価できるか、いわば業務上の課題を直ちに解決すべく状況ではないかと推察します。ヒト培養皮膚モデルを用いて化学物質を添加し、透過した化学物質の定量手法を開発したことが報告されました。

4人目は、筆者が、化学物質の発がん-特に肺腫瘍について種差とリスク評価の観点から-というタイトルで、ヒトでは発症しないマウスやラット特有の肺がんとその発がんの解釈を紹介しました。

マウス特有の肺がんを発生させる化学物質としてスチレンを含め8種類の化学物質があること、肺がん発症の機序としてマウスの末梢気道には特有の酵素(CYP2F2)が関与していることを報告しました。この発がんのヒト発がん性への解釈は、マウス特有のため評価に用いないを紹介しました。ラットにも特有の肺腫瘍の発生があり、これは難溶性物質を過剰に吸入ばく露した時に発症すること、この機序として、過剰投与による物質の排泄遅延が関与することを報告しました。ラットによる肺腫瘍の知見は、マウスと異なり、ヒトの許容ばく露濃度などにも活用されます。過剰ばく露がヒトにおいてもおこりうること、ラットの肺腫瘍の発生率には用量閾値があることから、許容濃度の算出にも利用されやすいことなどによります。いずれにしても、齧歯類での発がんの知見には、種特異性も含め検討することが重要であることを述べました。



以上4名の講演は、産業現場における化学物質の労働衛生管理や有害性情報に貢献しております。研究を実施する時は、研究の成果が化学物質の管理にどのように活用できるかをイメージすることが必要であることを改めて認識いたしました。



ダイバーシテイ推進委員会フォーラム



『「若手会員が考える学会活動の意義と期待－ 「学会へ」行こう！等身大の経験談から」参加体験記』

(四国地方会)

日亜化学工業株式会社 産業医室 齋 藤 恵

今回残念ながら現地参加はできなかったのですが、Webで参加させていただきました。

まず、座長で、ダイバーシテイ推進委員会委員長である西賢一郎先生から、当委員会発足からの歴史・活動内容の紹介、今回のフォーラム企画の意図を説明していただきました。次に同じく座長で副委員長の野原理子先生より、子育て中の学会員が育児と学会活動を両立させ不安なく学会へ参加できる手助けとなれば、という目的で地方会員が中心となって作成した「学会へ」行こう！－子育て中の学術集会参加ヒント集」の紹介がありました。



フォーラムでは4部会から推薦を受けた4名の先生方に、自身の学会活動への思いや、子育てと学会参加の両立の経験や悩みなどを語っていただきました。

産業医部会の道井聡史先生(本田技研工業株式会社)は、学会に参加することで事業所特有の悩みも共有できて解決への糸口となることや、「今後は参加する側から情報発信する側に回っていきたい」と学会参加の意義と抱負を語られました。ご家族同伴で学会へ参加されることも多いということで、微笑ましい写真の紹介もありました。

産業看護部会の吉川悦子先生(日本赤十字看護大学)からは、学会に参加して情報、知見を収集→研究成果を発信し議論しネットワークを作る→企画を提案し学会を盛り上げるといったように、ライフサイクルによって学会への関わり方が変わってきた、とのお話がありました。出産されてからも娘さんを連れて学会参加。2024年はマラケッシュで開催予定の国際学会へもお子さん連れで出席予定とのこと。たくさんの写真を交えて生き活きと話されました。

産業歯科部会の後藤理絵先生(公益財団法人ライオン歯科衛生研究所)は、職域での歯科保健の大切さを知ってほしい、という思いからの学会参加。学会で知りあった先生と仕事で協力できるようになった出会いなどを話されました。子育てをしながら大学院進学、頼れるところは頼るなどしてパワーバランスを考えての行動で乗り切ってきたそうです。

産業技術部会の大久保茂子先生(昭和大学 医学部衛生学公衆衛生学講座)は、4歳のお子さんの育児中で、年間に参加する学会に優先順位をつけ、最優先である産業衛生学会への参加は、前年の秋から実家のお母さんの予定などを確認して準備している、とのことでした。産業技術部会が独自に実施した「子育て期の学会の課題」調査の結果もお話いただき、今後の課題として、子供向けの参加企画や親の仕事に触れる機会などが挙げられた、とのことでした。



子育て中の先生方の学会に対する真摯な思いや、子育てをしながらも学びたいという意欲がストレートに伝わり自分の若い頃も思い出され胸が熱くなりました。もう「子供を預かる祖母の立場」でもありますが、ダイバーシテイ推進委員会の活動を通じて、少しでも若手会員の皆様が安心して学会へ参加ができるためのお手伝いをできたらという思いが強くなりました。演者の先生方、西先生、野原先生、本当にありがとうございました。

第26回 産業医プロフェッショナルコース開催のお知らせ



長谷川将之



加藤憲忠

主催 日本産業衛生学会 産業医部会
後援 一般財団法人労働衛生会館

実行委員長 長谷川将之
企画運営委員長 加藤憲忠

本コースは、産業医の実務に役立つタイムリーな話題や研修機会を提供することにより、産業医の技能向上を目的とする研修プログラムです。参加された受講者間のネットワークが広がることも魅力の一つになっています。参加は、専属産業医、嘱託産業医を問いません。産業医として更なる成長を目指す意欲ある方の参加をお待ちしています。

1. テーマ 新時代のセルフケア

～未来のワークスタイルへの ところとからだの処方箋～

研修目標：「最近テレワークが多いせいか、体が痛かったりうまく集中できなくて困っているんです。先生、何かいい方法ないですか？」最近増えているこのような相談、どのようにアドバイスをして社員の生産性を維持・向上させますか？ワークスタイルが大きく変化し、自律的な健康管理が求められる今、従来のデスクワークはもちろんのこと、テレワークなどの新しいワークスタイルにも効果的なセルフケア処方箋を習得します。

2. 開催日：2022年1月22日(土)～1月23日(日)

3. 会場：web 開催

4. 内容

－ 1日目(1/22) － 13:00－17:45

I 講演・グループワーク

仮) 未来のワークスタイルへの処方箋“からだ”編

講師：永田 智久(産業医科大学産業生態科学研究所 産業保健経営学 准教授)

福谷 直人(株式会社バックテック 代表取締役)

18:30－ 情報交換会(懇親会)

－ 2日目(1/23) － 9:00－12:00

II 講義・グループワーク

仮) 未来のワークスタイルへの処方箋 “ところ”編 ～マインドフルネス～

講師：佐渡充洋 (慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室専任講師)

5. 募集人数：40名
6. 受講料：日本産業衛生学会産業医部会員 20,000円(2日間コース)
日本産業衛生学会会員(医師) 25,000円(2日間コース)
7. 受講修了者には修了証を産業医部会長名にて発行致します。
8. 申込方法等：下記のWebから申し込みをお願い致します。
Pコース申込フォーム <https://ws.formzu.net/fgen/S46016214/>
 - 1) 「必須」表示の項目は必ずご記入下さい。
 - 2) 情報交換会(懇親会)：初日プログラム終了後、オンライン懇親会を行います。担当講師、運営スタッフも参加しますので議論や懇親を深めることができます。参加ご希望の有無をチェックして下さい。
 - 3) 申し込み事務局：
(株)ヒューマン・リサーチ内 産業医プロフェッショナルコース事務局
〒160-0011 東京都新宿区若葉2-5-16 向井ビル3F
(株)ヒューマン・リサーチ TEL03-3358-4001
9. 応募の開始と締切
 - ・ 応募開始(先着順受付とさせていただきますのでご了承ください)
産業医部会員：2021年11月1日(月)9:00から
非部会員：(医師かつ学会員が必要)2021年11月8日(月)9:00から
 - ・ 応募締め切り(部会員/非部会員を問わず)2021年11月14日(日)17:00まで
 - ア) 締め切り後、参加決定者には事務局より受講料振込み等の必要書類を郵送致します。
 - イ) 2021年11月30日(火)を過ぎても事務局から連絡がない場合は、申し込み事務局までお問い合わせ下さい。
10. 補足
 - 1) 産業医プロフェッショナルコースは「産業衛生学会専門医制度委員会」と連携しています。
本コースは専門医研修中の先生方に対する教育コースに認定されています。
 - 2) 産業医プロフェッショナルコースは、日本医師会認定産業医単位の発行はしていませんのでご注意ください。

以上

緊急企画 新型コロナウイルス対策特集

「第94回日本産業衛生学会感染対策チームに参画して」



五十嵐労働衛生コンサルティング合同会社 五十嵐 侑

第94回日本産業衛生学会の新型コロナウイルス感染対策チームに声をかけていただき、学会開催にあたって学術集会における感染拡大防止対策に関わる機会を得た。感染対策チームは経験豊かな産業医陣に加え、保健所所長、信州大学の感染症専門医などのメンバーで構成され、事務局に助言・提言・実行するという位置付けであった。感染対策チームとして、他の学術集会の感染対策などの情報収集や、会場収容人数上限と出席可能者の上限の検討を行なった。大きな議論となったのは、現地開催の可否の検討だった。会場運営準備の関係で4月16日までに、国内流行状況に応じてチームの意見をまとめる必要があった。当時は、変異株への置き変わりや、大阪の新規感染者数が急増していた時期であり、1000人規模が松本を訪れることが許容されるのか否が検討された。最終的には事務局の判断で現地とオンラインのハイブリッド開催となった。

次の重要な論点は、開催地域で流行が拡大した場合の開催基準（→長野県の流行レベル5の場合はオンライン開催等）、流行状況異なる地域からの参加可否判断（→感染拡大流行状況に従った参加可否アルゴリズム作成と周知）、対面での会話が行われるポスター発表（→中止が望ましい）、体調確認申告書の提出要否（→提出を求める）、会期中の飲食の取り扱い（→ランチョンセミナーの弁当提供は可、等）などであった。参加者は医療職かつ専門知識を持つことから、モラルに頼る性善説に基づく方法もありながら、一方で感染対策の徹底を対外的にも示す必要があり、そのバランス取りに最大限の注意が払われた。参加者の納得感に加え、流行拡大時期の開催に、地域や社会からの批判が挙がらないかといった懸念もあった。事務局は地元の保健所と密に連絡を取り合い、開催準備が進められた。学会HPの感染対策の周知は他学会と比較しても、かなり丁寧に行われた。

現地参加者は当初の現地参加希望登録数から7割減少し、約400名であった。学会開催中は、現地で感染対策の確認を行い、対策の漏れがないようにした。一部で参加者の密集場面、学会参加者以外の一般来場者にマスクの未着用の方がいるとの通報、健康状態申告書の回収漏れ等も発生したが、現地での感染防止対策は予定通りに進行した。学会終了後に感染者発生もなかった。コロナ禍においても感染対策を徹底することで現地開催ができたことは重要なことであり、他の学術集会の感染対策にも参考になる知見を示すことにも社会的意義があったと考えられる。

最後に、感染対策チームのメンバーを紹介する。

五十嵐侑、今井鉄平、荻久保裕子、金井信一郎、吉川恵造、小林良清、守田祐作、吉川悦子、吉川徹、和田耕治、（あいうえお順・敬称略）



現地写真（CO2濃度測定実施）



感染対策チームのオンライン会議（筆者は右下）

シリーズ 私たち頑張ってます！



「私たち頑張っているのか？」

(東北地方会)

東北電力(株)本店健康推進センター 望月 るり子

東北電力(株)本店で専属産業医をしている望月と申します。どう見ても頑張っていない私のところへ、福島県立医大の各務先生から「シリーズ 私たち頑張ってます！」の寄稿依頼をいただき、「まじか?!」と思いましたが、もうチョイガンバレというエールと受けとめ書いてみます。

神経内科医として勤めていた広南病院をやめ、広南病院長から専属産業医に移られた高瀬先生の跡を継いだのが2009年春。従業員数2000を超える東北電力本店の健康管理をすることになりました。産業医室からは、仙台の街、青葉城址、その向こうの雪をかぶった蔵王連峰まで見えました。うーむ、人間到る処青山あり。あ、ちょっと意味が違う？

まずは産業医の仕事始めに、形式的で煩雑な社内の健康管理ルールを変え、健診項目も整理、判定基準も標準化しようと提案しましたが、静かな抵抗にあい、何も変わらず変えられず。無駄に意欲的になってもしゃあないと諦めました。

しかし2011年の震災、会社は創業以来の最大の危機をむかえ既存の制度見直しを余儀なくされたのだと思います。「先生、あの時の提案ですが……」とやってきて、変わる時は変わるものだと実感。YDK！やればできる子ではないか。ただ、会社と産業医の意見の板挟みになったりする事務方は結構大変そうでした。その後は、実働部隊を説得すると同時に、健康相談でちょっと来室した上層部をとっつかまえて産業医の考えを聞いてもらう両面作戦。以前より仕事が適切なベクトルで進みやすくなった気がします。

そんなことをしみじみ言ってる間もなく、電力小売完全自由化、発送電分離と分社化の電力改革、原発の再稼働、脱炭素などの課題に向き合う中で、会社自体がタイヘン、社員もタイヘン。結果、長時間労働者面談が多すぎる、適応障害を起こした人との面談も多すぎる、もしかすると結構忙しい……。

しかもここに来て急遽、新型コロナウイルスワクチンの職域接種を私たちのチームでやることになりました。本日は東北大学のクリニカル・スキルスラボで再教育を受け、帰りに大崎八幡神社に安全必勝祈願(?)をしてくる所存なり。5人のしっかり者の保健師さんに囲まれ十分心強いが、もう一人専属産業医がいてほしいなあ。どなたか仲間になっていただけませんか？



2019年TOHOKU LOVE GAKUSEI MOVIE CONTESTで東北電力のゆるキャラ「マカプゥ」と。のちの長時間労働者面談で「あの時あの中にいたのは私です」と言われ、感動の再会をした。

シリーズ はじめまして！



(近畿地方会)

パナソニック健康保険組合 健康管理センター 産業医 國枝佳祐

皆さま、はじめまして。

最近はなかなか学会もリアル開催が難しく、皆様にお会いできず、寂しく感じている、パナソニック健康保険組合産業医の國枝佳祐です。今回はご指名頂きましたので、折角の機会ですので、寄稿させていただきます。

私は2012年に産業医科大学を卒業後、京都府立医科大学研修医、松下記念病院研修医、松下記念病院消化器内科での研修を経て、2015年より産業医科大学実務研修センターにて、産業保健の道に進ませて頂きました。同時期に日本産業衛生学会にも入会させて頂きました。

恥ずかしながら、産業医科大学に入学していなければ、今の産業医としての私のキャリアは存在しなかったと思われそうです。やはり、在学中から、多くの諸先輩方の現実味のある話を聞く中で、好奇心が旺盛な私にとって、産業保健の分野は非常に興味深いものを感じました。産業保健活動において好奇心はとても大切だと常に感じておりますし、私自身大切にしております。

2016年度以降は研修先でもあった、松下記念病院の関連のパナソニック健康保険組合にて産業医として勤務させて頂いております。パナソニック健康保険組合には多岐にわたる業種の企業が存在しており、私も複数企業の産業医として経験させて頂いております。好奇心旺盛な私にとっては日々新たな発見があり、大変充実した日々を送っております。あわせて、自身の知識不足を実感する日々が続いております。今後も諸先輩方に甘えさせて頂きながら、私の好奇心を満たしていきたいと考えております。こんな、不束者の私ではございますが、どうぞこれからもご指導・ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染症の流行が続いております。まずは最前線でご活躍頂いております、医療従事者の皆さまにはこの場を借りて、感謝申し上げます。企業においても予防医学的見地が非常に重要になってきていると感じております。産業医の私としても後方支援としてお役にたてるように努めていきたいと考えております。

皆様にリアルでご挨拶できる日を楽しみにしております。



希望の虹とパナソニックスタジアム

地方会からの報告



『東海地方会産業医部会懇話会に参加して』

(東海地方会)

パナソニック(株) IS社伊勢 山口 威 俊

2021年4月24日にウインク愛知にて行われました「2021年度東海地方会産業医部会懇話会」に参加いたしましたので、報告いたします。当初は現地での開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、急遽、オンラインも併用した開催となりました。会場、オンライン共に20名ずつ、計40名の参加がありました。

はじめに、東海地方会産業医部会長の石川浩二先生から開会のご挨拶があり、その後、製薬会社から最近の抗うつ薬について15分ほど情報提供がありました。続いて、同副部会長の遠田和彦先生の司会にて、第1部の講演『現場の活動を社会に還元—事業所・地域のレベルアップからダイバーシティに—』がジヤトコ株式会社の統括産業医である西賢一郎先生より約70分間行われました。まず、前職にて勤務された経験や地域でのレベルアップ活動、現職のジヤトコ株式会社での産業保健活動についてお話がありました。学術面では産業医科大学の研究所に在籍しながら、ナノ粒子の生体に与える影響についての研究、学位取得の経緯をご説明いただきました。学会活動ではダイバーシティ推進委員会の代表をなされ、様々な立場の学会員が活躍できる仕組み作りに邁進されている様子が伺えました。最後に産業医として「出会いはいつも大切に！」することが重要であるということをご教示いただきました。

次に同副部会長の内野文吾先生に司会を代わり、第2部の会員活動報告が各30分、3人の先生から行われました。はじめに、三菱ケミカル(株)四日市事業場の安田佑里那先生よりリモートにて報告がなされました。コロナ禍において「MCCつながりプロジェクト」を企画し、仲間へのメッセージ収集と発信を通して、従業員の分断予防につながっていました。次に(株)アドヴィックスの寺澤哲郎先生より報告がなされました。銀行業務の特徴、労働衛生管理体制と内容の特徴についてお話があり、健診から治療までを社内の健診センターにて行われていること、メンタルヘルス対策は50年以上前から行われていることが印象的でした。しかし、近年は銀行の経営環境の変化から業務範囲も縮小傾向にあるとのことでした。3番目に東ソー(株)四日市事業場の阪田研一郎先生から石油化学工業と化学物質の管理方法、関連法令についてお話があり、さらには喫煙室、室内湿度の改善事例や環境的な新型コロナの対策など、大変熱の籠った報告内容でした。

最後に、産業医部会長(当時)の斉藤政彦先生からリモートにて総評をいただき、閉会となりました。



第1部講演の西賢一郎先生



『第23回 北海道地方会 産業保健研修会 開催報告』

(北海道地方会)

北海道労働保健管理協会
北海道地方会 幹事

原 俊 之

さる3月13日(土)午後、北海道自治労会館にて標記研修会を開催しました。

ちょうど1年前、新型コロナウイルス感染がみるみる拡大し、地方会長以下の関係者で直前まで悩んだ末、やむなく中止した研修会の「リベンジ」であり、3人の講師とテーマもほぼ持ち越しでお願いしました。

歯科の先崎秀夫先生(リモート講演)からは、「歯科口腔疾患と働き方改革—定年70年時代を見据えて」のテーマで、20~30代から認められる歯周病、50代以降の半数が歯を喪失する実態、がんや脳・心疾患等の生活習慣病とも関連することからも医科・歯科連携が重要であることと併せて、コロナ対策として、「時間差・換気・ながら磨きで7分間以上」の「黙ブラシ」が推奨されました。

大西浩文教授(札幌医大・公衆衛生)からは、「職場における糖尿病対策」のテーマで、「多忙・無症状」を理由とした年間約8%の勤労者の治療中断や合併症リスク上昇と共に、糖尿病コントロール不良がCOVID-19感染症重症化・死亡リスク因子でもあることが紹介され、「事業者としての両立支援の表明・周知・体制整備」や「産業保健スタッフとしての社内研修・啓発や相談窓口の明確化」などが提言されました。

北海道産保センターの新田直幸副所長からは、「最近の労働行政トピックス」として、溶接ヒュームの特化物指定を含む法改正情報の概説と共に、道内のコロナ感染症のうち職場クラスター事例も紹介いただきました。

今回、会場とオンラインでの初のハイブリッド研修会となり、講師と受講者の一部でオンライン参加いただきました。当日、研修委員は早くから会場入りし、分担して機器や受付、会場セッティングにと取り組み、何とか無事に開催できたかなと内心思っていました。後日オンライン参加者から、「司会進行用PCにはずっとロッカーが映ってたよ」との思わぬ指摘を受けて冷や汗をかくなど、今後の課題も浮き彫りとなった研修会でした。



受付風景



会場内の様子



『関東産業医部会オンライン研修会参加体験記』

(関東地方会)

東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野博士課程 佐々木那津

3月14日(土)にオンラインで開催された関東産業医部会研修会に参加させていただき、「コロナ禍での医療や患者の変化」というテーマで3つの講演を拝聴いたしました。

講演1は「コロナ禍に翻弄される個人と組織を支える産業医への期待」と題して、弁護士の小島健一先生より、コロナ禍では、今まで企業が積極的に関与してこなかった「個人の脆弱性(健康)」をすべての労働者の前提とし、労働者それぞれがもつ「全体性(家族・私生活)」に向き合う必要性が出てきたことのご説明がありました。コロナ禍は、脆弱性も含めた多様性を活かすインクルージョンの促進に好機ととらえることができ、そのための“自立”と“助け合い”の環境構築に向け、産業医の役割に期待を示されました。「対話」から始まる合理的配慮が個人と組織を成長させること、そしてその労使の「対話」を促進させることが産業医の使命であるとお話しされました。

講演2は「コロナ禍で目立ってきた救急医療の課題」と題して川越救急クリニック院長の上原淳先生より、日本におけるCOVID-19流行および救急対応方針の経過のご説明がありました。患者動向として、軽症患者の受診控えや救急出動件数の減少があり、その要因としてCOVID-19以外の感染症患者の減少、医療機関への負担軽減意識、医療機関での感染リスクの回避、交通事故や運動競技による外傷の減少を挙げられていました。今後の救急医療の課題として、医療資材の備蓄不足・人工呼吸器を扱える専門医の不足・看護師の不足(離職)・病床不足・蘇生処置と感染対策の両立の難しさを指摘されました。

講演3は「コロナ禍におけるアルコール依存症治療の課題」と題してさくらの木クリニック秋葉原院長の倉持穰先生より、もともとアルコール使用障害は、早期発見・早期介入・早期治療が難しいこと、コロナ禍の不安感や孤立からアルコール乱用や依存が増える可能性があること、在宅勤務では職場の課題に気づかれにくいことのご説明がありました。在宅勤務中の連続飲酒から、出勤による禁酒で痙攣発作の離脱症状を起こした症例など、貴重な症例をご紹介いただきました。産業医は労働者への疾患教育やスクリーニング(AUDITやCAGEなど)の紹介を通じて、「否認」から「病識の形成」につなげることをご提案されていました。

コロナ禍での産業保健活動に役立つ、大変有意義な研修会でした。



倉持 穰先生



上原 淳先生



小島 健一先生



オンライン配信中の会場風景

医 部 会 新 任 幹 事 の ご 挨拶



産業医科大学 産業生態科学研究所 作業関連疾患予防学 池 上 和 範

『ご挨拶』

このたび産業医部会幹事(九州地方会)を拝命いたしました産業医科大学の池上和範です。よろしく
お願い申し上げます。

私が所属する作業関連疾患予防学(教授:大神明)では、「労働現場で発生する疾病の職業性因子や予
防方法を解明し、効果的な作業改善の方策を提示すること」をミッションに掲げ、現場の産業保健専門
職と連携し、研究を行っています。また、本学事業として、当研究所所属の若手医師の産業医活動支援や
産業医需要供給調査、首都圏専門的産業医等養成支援、各種研修事業等を担当させて頂いております。
大学所属ではありますが、産業保健専門職や労働現場と密接に関わり、課題解決に取り組んでいます。

私は、2003年に産業医科大学を卒業後、産業保健研修コース(現専門産業医コースI)に進みました。
この間、産業生態科学研究所 精神保健学(現産業精神保健学)に所属し、永田頌史先生、廣尚典先生(共
に名誉教授)から貴重な指導を受けることができました。その後は、神奈川県にあるスタンレー電気株
式会社に就職し、7年間、産業保健活動に従事いたしました。スタンレー電気株式会社は、国内従業員
規模が4000名弱の自動車部品メーカーです。私が着任するまで専属産業医はおらず、非常勤産業医が月
2日程度出務する程度でした。入社後しばらくは、人事総務部の管理監督者から「専属産業医なんて必
要ない」といった嫌味も言われ苦労しました。しかし、経営層から従業員まで、産業保健の重要性を執
拗に主張し続けた甲斐もあり、産業保健が社内で認知されるようになり、そして現在は優秀な後輩が引
き継いでくれ、産業保健体制も拡充している状況です。

最近、本学の2021年度事業として新たに立ち上げられた産業医科大学「専門的産業医実地研修事業」
の企画運営に携わらせていただいています。本事業は、「将来、総合的な実践能力を有する産業医を目
指す(本学以外の医学部卒業の)医師を対象として、事業所での現任訓練(嘱託産業医)やオンラインに
よる指導・支援を提供し、産業医学における高度な人材を育成すること」を目的としています。幸い
に新しく産業医活動をはじめる医師と交流する機会も多く、彼らに産業医部会への入会や産業医部
会主催の研修会への参加などを積極的に促したいと考えております。日本産業衛生学会ならびに産
業医部会が一層発展しますよう寄与していく所存
ですので、よろしくお願い申し上げます。



2020年修練医入局者壮行会にて

産業医部会、各地方会 行事開催予定一覧(2021年9月～2021年12月)

開催年月	産業医部会	地方会	名称	日時・開催地
2021年 9月		中国地方会	第4回日本産業衛生学会 中国地方会研究会	2021年9月23日(水:祝) 13:30-15:30 松江テルサ 大会議室 (島根県松江市朝日町478-18)
10月		近畿地方会	第61回近畿産業衛生学会 (兼 第26回近畿産業医部 会研修会)	2021年10月23日(土)9:20-17:20 (第26回産業医部会研修会 同時開催 14:00-17:10) パナソニックリゾート大阪
		北海道地方会	令和3年度 日本産業衛生学会 北海道地方会総会	2021年10月23日(土)10:00-17:00 旭川市大雪クリスタルホール 大会議室(旭川市)
		関東地方会	令和3年度 関東産業医部会 第2回オンライン研修会	2021年10月30日(土)14:00-17:00 オンライン開催
		北陸甲信越地方会	第64回 日本産業衛生学会 北信越地方会総会	2021年10月31日(日)9:30-15:00 新潟県医師会館 大講堂
11月		中国地方会 四国地方会	第65回中国四国合同 産業衛生学会産業医部会 研修会	2021年11月20日(土)15:30-17:30 オンライン開催
12月	第31回日本産業衛生学会 全国協議会			2021年12月3日(金)～5日(日) 三重県総合文化センター(三重県津市) オンデマンド 12月10日(金)～1月10日(月)
	第31回日本産業衛生学会 全国協議会 産業医部会自由集会			2021年12月4日(土)17:30-19:30 (予定) 三重県総合文化センター(三重県津市)
	社会医学系専門医制度関連			2021年12月3日(金)15:10-16:10 (予定) 三重県総合文化センター(三重県津市)
	産業衛生専門医制度関連			2021年12月3日(金)13:00-14:00 (予定) 三重県総合文化センター(三重県津市)
	2021年度 第2回幹事会			2021年12月3日(金)12:00-15:00 (予定) 三重県総合文化センター(三重県津市)
	会報 第74号(2021年12月号)発行予定			

内容等	その他
13:30-14:30 講演1「リモート産業保健活動の最新状況(オンラインによる安全衛生委員会等) (基発第0827第1号情報通信機器を用いた安全委員会等の開催について)」 講師:高尾総司(岡山大学大学院 疫学・衛生学分野 准教授) 14:30-15:30 講演2「テレワーク下における健康管理安全配慮義務と自己保健義務の観点から」 講師:高尾総司(岡山大学大学院 疫学・衛生学分野 准教授)	最新情報については、中国地方会ホームページにてご確認ください。
テーマ:大変革期の産業保健 ～with コロナ時代の将来展望～ 1)基調講演「コロナ時代の職域における循環器疾患の管理(仮)」 演者:坂田泰史(大阪大学医学部 循環器内科 教授) 2)シンポジウム「コロナ禍での職域における生活習慣病対策」	大会長 伊藤正人(パナソニック 健保健康管理センター) 実行委員長 西田和彦(長谷クリニック) ※第26回近畿産業医部会研修会として (参考)近畿産業衛生学会 https://jsoh-kinki.jp/kinki-04/
特別講演「高齢労働者の健康と安全確保のためのエイジマネジメント」 講師:神代雅晴(産業医科大学 名誉教授) シンポジウム「職域における発達障害への対応」 1「職域における発達障害社員への医療機関での対応」 横山太範(さっぽろ駅前クリニック) 2「産業医による発達障害社員への対応と支援の経験」 笠井世津子(笠井産業医事務所) 3「大学における発達障害学生への支援と就職への対応」 斎藤美香(札幌学院大学 心理学部)	最新情報については、日本産業衛生学会北海道地方会のHPをご参照ください。
テーマ:特化則等の改正を踏まえた化学物質管理(案)、職場のハラスメント(案)、職場における高齢者の健康管理(案)などで調整中	方法:ウェビナーを利用したオンライン方式 無料 各種単位付与は無 対象者:産業医部会員(全国)、関東地方会員 最新情報については、日本産業衛生学会関東地方会のHPをご参照ください。
大会長 堂前洋一郎(新潟県医師会会長) 1.一般演題 口演8題程度 9:30-11:20 2.総会議事 11:30-12:00 3.日本産業衛生学会北陸甲信越地方会産業医部会総会等 12:00-12:30 4.シンポジウム 13:00-15:00 テーマ「with コロナ時代の産業保健」 座長 興梠建郎(新潟産業保健総合支援センター 所長) 1)臨床現場から見た新型コロナウイルス感染症(仮) 影向晃(新潟市民病院 感染症内科部長・感染制御室長) 2)with コロナ時代のメンタルヘルス対策(仮) 後藤雅博(医療法人社団崇徳会 こころのクリニックウイズ 院長) 3)在宅勤務と健康管理(仮) 牛蒡伸枝(株式会社 INPEX 国内 E&P 事業本部 保健師) 4)質疑応答	最新情報については、日本産業衛生学会北陸甲信越地方会のHPをご参照ください。
「産業保健とデータ AI ～ピープルアナリティクスの視点から～」 講師:大村大輔(三菱ケミカル株式会社) 「最近のダイバーシティの動向と産業医の実務」 講師:斎藤恵(日亜化学工業株式会社)	
メインテーマ:経済社会と健康:ポストコロナの産業衛生を考える ※本文13ページ参照	大会HP: https://procomu.jp/sanei-zenkoku2021/ ※今後の状況により予定変更があります。大会HPをご覧ください。
テーマ:「産業医にも活かせる資格の知識」※本文14ページ参照 演者:森本英樹(森本産業医事務所) 今井鉄平(OHサポート株式会社) 宋裕姫(日産自動車健康保険組合) 加藤憲忠(富士電機株式会社 大崎地区)	※今後の状況により予定変更があります。大会HPをご覧ください。
社会医学系専門医・指導医講習会	※今後の状況により予定変更があります。大会HPをご覧ください。
産業衛生専門医制度説明会 ※認定証授与式は16:30-17:30(予定)	※今後の状況により予定変更があります。大会HPをご覧ください。

編集委員会よりお知らせ

(1) 医部会報における二重投稿（著作物）の考え方

一般的に、新たな創作性の認められない①ありふれた表現 ②歴史的事実やデータ ③事実の伝達にすぎない報道等 ④法律や裁判所の判決等 などは著作物にあたらないとされています。したがって、編集委員会としては、他媒体に既掲載のものと一言一句、同一の原稿は二重投稿と判断しますが、事実記載が一部同一であるだけでは二重投稿とみなしません。投稿者が判断に迷う場合は、申し出に応じて、編集委員会で個別に審議のうえ判断します。また著作物（文章・画像）を医部会報へ転載・引用する場合は、著作者の許可を得るか、引用を明記して、許可・引用の範囲内で適切に使用してください。

参考：（公社）著作権情報センター（CRIC）<https://www.cric.or.jp/qa/hajime/hajime1.html>

(2) 部会員からのお知らせコーナー ご活用ください

学会や研究会など部会員の関わる行事の告知や著書紹介など、情報の周知を目的としたコーナーです。掲載ご希望の方は、事務局宛てに原稿（字数400字程度＋写真1枚）をメールでお送りください。なお掲載に関しては、医部会活動目的に照らし編集委員会にて審議のうえ決定させていただきますので、ご了承のほどお願いいたします。

(3) 自由投稿を歓迎します

部会報は部会員の交流の場です。編集委員会として、より多くの皆様のご意見などを紹介したいと考えています。1,000字程度にまとめ、事務局宛てメールにて、ご送付ください。

(4) バックナンバーは産業医部会ホームページにて公開しています。

<https://sangyo-ibukai.org/kaiho.html>



(5) ご意見をお待ちしています

皆様のご期待に沿えるよう、より一層誌面の充実に努めてまいります。ご意見や企画案など、是非、事務局までお知らせください。よろしくお願いいたします。

【事務局連絡先】（公社）日本産業衛生学会 産業医部会事務局

Eメール：sanei4bukai@nifty.com TEL：03-3358-4001 FAX：03-3358-4002

編集後記

この記事編集している現在、東京オリンピックの最中であり、一方で新型コロナウイルス感染症第5波も始まっております。開会前から開催の是非についての報道が続いており、スポーツファンである筆者も心を痛めております。個人的には事情が許せば、新型コロナウイルスワクチン接種率がさらに上がって第5類になっているであろう、もう1年延期が理想と思っていましたが、諸事情の結果、開催に至ったものと思われれます。本稿が届く頃には、一定の非難、犠牲は避けられないものの、数えきれないほどの感動と勇気を与え、国民の大多数が「開催してよかった」といった事態になっていることを切に願ってやみません。コロナ禍で、多くの人々が犠牲を強いられています。一概に「いい経験になった」と単純にプラス思考だけでは片づけられないものの、「過去と他人は変わらない、変えられるのはこれからの自分だけ」という交流分析の哲学に則り、働く人々の健康増進へ少しでも寄与していきたいと思えます。(K.I)

編集委員会委員

池 上 和 範（産業医科大学）、○石 川 浩 二（三菱重工）

◎谷 山 佳津子（朝日新聞）、原 俊 之（北海道労働保健管理協会）

◎：編集委員長、○：第73号編集担当（五十音順） 【編集協力】彌 富 美奈子（SUMCO）